

同志社女子大学が紡ぐ、産官学連携と発展の連鎖

産官学連携メニュー

産官学連携

共同研究	学外機関の研究者と本学教員とが、契約に基づき、対等の立場で共通の課題について研究に取り組み、優れた研究成果を生み出すことを目的とした制度です。
受託研究	学外機関からの委託を受けて、本学教員が契約に基づき研究・調査・試験を行い、その成果を委託者に報告する制度です。
学術研究員	産官学連携事業等の推進並びに本学教員の共同研究活動支援の目的のため、本学において学術研究を希望する者を受け入れています。
学術研修員	産官学連携事業等の推進並びに本学教員の研究活動補助の目的のため、本学において学術研修を希望する者を受け入れています。
奨学寄付金	研究の奨励を目的とした寄付金を学外機関から受け入れています。
知的財産の活用	本学が保有する知的財産を産官学のあらゆる業界・地域社会に提供いたします。

地域・社会との共生

地域社会との交流	地域社会との連携体制をさらに強化し、教育・研究の成果を社会に還元します。
----------	--------------------------------------

産官学連携のプロセス

学術研究支援課に相談

産官学連携メニューの紹介

教員と研究内容について
打ち合わせ

契約内容について
打ち合わせ

連携内容、メニュー、期間、金額を決定

申込書の提出

契約締結

研究開始

研究完了・成果報告

歴史を超え、未来へ

DoRIS

Doshisha Women's College of Liberal Arts
Research Interchange System

2023

産官学連携のしおり

Guide for a Collaboration between Industry, Government and Academia

研究者データベースの紹介

同志社女子大学の研究者情報は本学ホームページ
(<https://research-db.dwc.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/index.html>)にて検索できます。

同志社女子大学 研究者データベース

検索



お問い合わせ先



同志社女子大学 学術情報部 学術研究支援課
TEL: 0774-65-8455 FAX: 0774-65-8680 E-mail: research@dwc.doshisha.ac.jp



同志社女子大学 学術情報部
学術研究支援課

地域社会と同志社女子大学を結ぶ



同志社女子大学
学術情報部長
川崎 清史

部長あいさつ

同志社女子大学は、リベラルアーツ教育を重視した6学部11学科、大学院5研究科及び1専攻科を擁する女子総合大学です。

本学での産官学共同事業では、各学問分野の高い専門性を有した研究者が企業や国・地方公共団体の方々と共同研究等により、新しい技術の研究開発や新しい事業の創出、新しい製品開発などの成果を生み出しています。

また、地域と連携し、教育・研究の成果を社会に還元することで社会貢献に活かしております。

今後も、本学は産官学連携により地域社会貢献の発展に寄与してまいりますので、よろしくお願いいたします。

奨学寄付金受入実績 (2020年度～2022年度)

- 公益財団法人 飯島藤十郎記念食品科学振興財団
- 株式会社 ジェイ・エム・エス
- Eneco Holdings 株式会社
- 株式会社ナールスコポーレーション
- 学校法人関西文理総合学園長浜バイオ大学
- 株式会社モトックス
- The Academy of Korean Studies
- 株式会社ラディエンス
- 特定非営利活動法人現代経営学研究所
- 株式会社理創化研
- 住友ファーマ株式会社

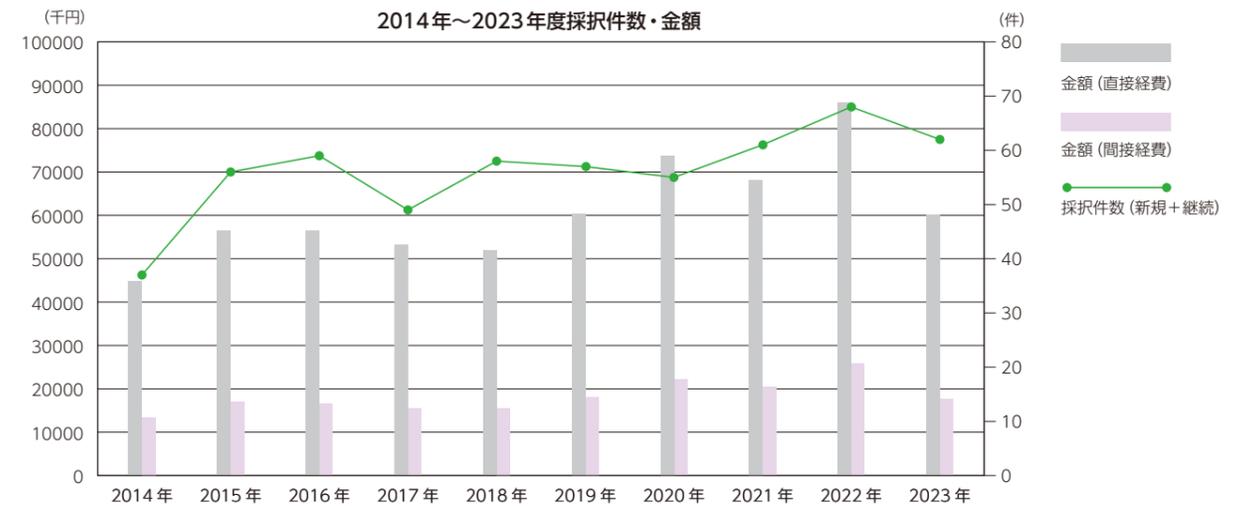
(社名50音順に記載)

外部資金獲得状況

共同研究・受託研究受入実績 (2020年度～2022年度)

種別	所属・職・氏名	研究課題等	機関名
共同研究	学芸学部/教授/和氣 早苗	四輪自動車のコックピット向けサイン音の研究開発	スズキ株式会社・ヤマハ株式会社
	現代社会学部/教授/日下 菜穂子	食酢ドリンクを介したコミュニケーションの創出及び、コミュニケーションの発生を支援するボトル開発に関する研究	株式会社Mizkan・学校法人常翔学園大阪工業大学
	薬学部/准教授/喜里山 暁子	難溶性薬物の溶解性と吸収性(膜透過)との関係の解明	東和薬品株式会社
	薬学部/准教授/喜里山 暁子	CBDの生体利用率を向上させる配合因子の探索および新規水溶性化CBD製剤の開発	C&H株式会社
	薬学部/准教授/松元 加奈	再生不良性貧血におけるウサギATG+シクロスポリン+エルトロンパク療法の有用性に関する検討(W-JHS AA02)	一般社団法人九州臨床研究支援センター
	薬学部/特任教授/高橋 玲	アポトーシス抵抗性癌幹細胞における免疫組織化学的研究	株式会社メディック
	生活科学部/教授/小切間 美保	中学生の調理経験と食事観、自尊感情との関連性の研究	京田辺市
	生活科学部/教授/小切間 美保	食に関する家庭科授業による生徒の調理経験と食事観、自尊感情の関連性の研究	京田辺市
	生活科学部/准教授/森紀之	食品中の難消化性成分が腸内細菌活動に与える影響に関する研究	株式会社上野忠
生活科学部/特任教授/西村 公雄	野菜の保存条件の違いがおいしさに及ぼす影響について	パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社	
受託研究	現代社会学部/教授/天野 太郎	京田辺市における新しい観光マップの作成を通じた地域理解の促進を目指す実践的研究	京田辺市
	現代社会学部/教授/日下 菜穂子	真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点	国立研究開発法人科学技術振興機構
	現代社会学部/教授/日下 菜穂子	QOL計測とハートフルネス実践による食体験共創システム	国立研究開発法人科学技術振興機構
	現代社会学部/教授/日下 菜穂子	高齢者向け音楽ワークショップの検証	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館
	薬学部/教授/前川 京子	抗生物質の品質評価手法の標準化に関する研究	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
	薬学部/教授/前川 京子	抗生物質の品質評価手法の開発および標準化に関する研究	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
	生活科学部/教授/杉浦 実	国産柑橘類の機能性成分含有量に関する調査研究、及び機能性表示食品制度への申請に向けた技術的支援業務	全国柑橘消費拡大協議会
	生活科学部/教授/眞部 真里子	しょうゆの香りが呈味や嗜好に及ぼす影響	キッコーマン株式会社
	生活科学部/准教授/麻生 美希	21世紀・アイヌ文化伝承の森整備推進事業の内アイヌ文化振興にむけた観光学等の学術的・多角的観点からの調査研究	国立大学法人北海道大学

科学研究費助成事業(文部科学省・日本学術振興会)採択状況



研究プロジェクトから



血清ビタミンD値を指標としたMCIの早期発見と認知機能維持に関する研究

研究概要

認知症とは、脳の病気や障害などによって、記憶や判断などを行う脳の機能(認知機能)が低下し、日常生活や仕事に支障をきたすようになった状態のことである。また、要介護状態に至る原因の24.3%は認知症と報告されている。認知症の割合は、65歳以上の高齢者の5人に1人、日本全国で600万人、また、ほぼ同数が、「認知機能は正しくないが、日常生活に支障のないMCI(軽度認知障害)」と報告されている。MCIは1年後に12%、5年後に約半数が認知症へ移行することが知られており、早期の認知度の把握と認知症移行に対する予防対策が喫緊の課題である。本研究では、ビタミンDが高齢者の認知機能に与える影響について検討を行った。平均74.4歳の高齢糖尿病患者に、1日の必要量の半分に当たるビタミンDのサプリメントを服用し、認知機能を経時的に測定した。服用前の血清ビタミンD値は、1人を除いて全員が欠乏状態であったが、9ヶ月後には、1人が充足レベル、その他全員不足レベルに増加した。認知機能は、服用6ヶ月で60%の人に向上が認められた。現在、早期にMCIを発見し、ビタミンDの不足者にサプリメントでの補充を行うことにより、認知症への移行を予防する方策について検討を進めている。

産官学連携の意義

産業界との連携により、これまで行ってきた、認知症の予防法に関する研究成果を応用し、MCIの人とその家族のニーズに合った製品やサービスの提供に寄与することにより、認知症移行までの期間を延長できるものと考えている。また、地方自治体との共同研究により、地域住民の認知度を把握し、MCIの人に対して地域の実情に合わせた早期の認知症予防活動や家族支援を行うことにより、自治体が行う認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて寄与できるものと考えている。



看護学部 看護学科 特別任用教授 長谷川 昇